

# 取扱説明書

## 高压洗浄機

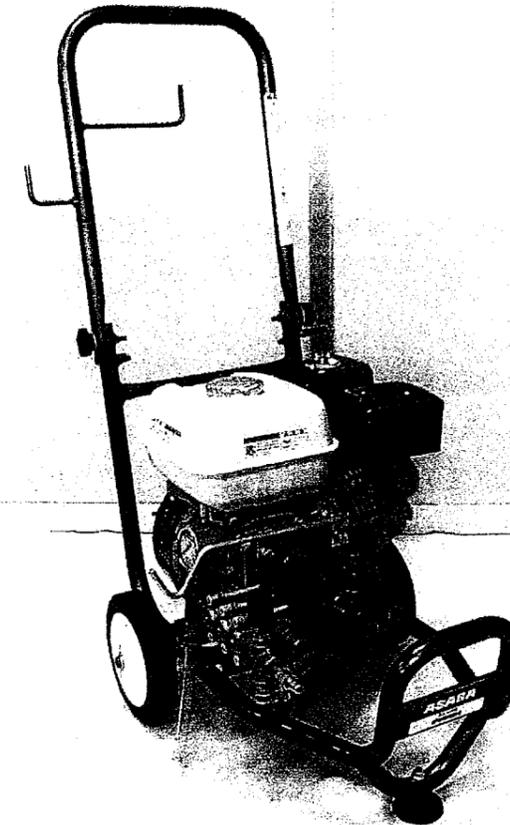
### APW1511DX-H



〒381-8530 長野市北長池1443-2

Tel. (026) 241-0206

<http://www.asaba-mfg.co.jp>



出荷時は、エンジン・ポンプにオイルは入っていません。  
使用し始める前に必ずオイルを入れてください。

ご使用前に必ず、お読みください。  
いつまでも大切に保管してください。

## はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮できるようにこの冊子をご活用下さい。また、お読みになったあと必ず大切に保管し、分からないことがあったときには、取り出してお読みください。なお、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。本製品についてお気付きの点がございましたら最寄の取扱店にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄の取扱店にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

### ■使用用途について

本製品は次のような洗浄作業にご使用いただけます。それ以外でのご使用はしないでください。

- 土木、建築機械及び農機具などの洗浄作業。
- 温泉、浴場施設、プールなどの屋外施設の洗浄作業。
- 店舗の看板、テントなどの洗浄作業。
- 自動車のボディ、足まわりなどの洗浄作業。
- 窓ガラス、ショーウィンドウ、床面、壁面など建物のメンテナンス時の洗浄作業。

また、本製品は洗浄用です。農薬、化学薬品、高粘度液、海水、温泉水及び高温水の使用はできません。

この使用用途を逸脱しての使用が原因での事故や許可なく改造及び分解を行い、それに伴って生じた事故は、お客様の責任になります。

### ■機械を他人に貸すとき

親切心が仇にならないように、機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導して下さい。特に禁止事項については念を入れて説明して下さい。

### ■注意事項について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

**⚠ 危険** . . . もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う事になるもの。

**⚠ 警告** . . . . その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるもの。

**⚠ 注意** . . . . その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

**注意** . . . . その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。

### ■国際単位について

本取扱説明書には、国際単位を表示しています。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

換算表

量	新計量法対応表示	換算	従来の表示	備考
面積	[m <sup>2</sup> ] (平方メートル)	10000[m <sup>2</sup> ] = 1[ha] = 100[a] = 10反歩 = 3000坪	[a](アール)、[ha](ヘクタール) 坪、町歩、反歩	※①
回転速度	[rpm] (回毎分) [min <sup>-1</sup> ] (毎分)	1 [min <sup>-1</sup> ] = 1 [rpm]	[rpm]	
力	[N](ニュートン)	9.8[N] = 1[kgf]	[kgf](重量キログラム)	
力のモーメント	[N・m](ニュートンメートル)	9.8[N・m] = 1[kgf・m]	[kgf・m]	
圧力	[Pa](パスカル) [N/m <sup>2</sup> ] (ニュートン毎平方メートル)	0.98[Mpa] = 10 [kgf/cm <sup>2</sup> ] 9.8[Pa] = 1[mmH <sub>2</sub> O]	[kgf/cm <sup>2</sup> ] [mmH <sub>2</sub> O]	
効率・動力	[W](ワット)	735.5[W] = 1[PS] 9.8[W] = 1[kgf・m/s]	[PS] [kgf・m/s]	

※注意事項

①土地面積については、[a]、[ha]を使用することがあります。

## 目次

1.  安全に作業するために	2
2. 各部のなまえとはたらき	6
3. 付属品	8
4. 主要諸元	9
5.  警告ラベルの取扱い	9
6. 始業前の準備	10
7. 始業点検	13
8. 始業運転	14
9. 吸水	14
10. 始動	15
11. 運転	16
12. 停止	18
13. 作業終了後	19
14. 保守点検	19
15. 長期格納	20
16. 故障診断	21
17. サービスと保証について	22

# 1. ⚠️安全に作業するために

## (1) はじめに

ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。

「安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですがこれ以外にも本文の中で ⚠️危険・⚠️警告・⚠️注意・注意 としてそのつど取り上げています。」

## (2) 作業前にこれだけは守りましょう。

- **こんな人は、作業してはいけません。心身ともに健康な状態で作業してください。**

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 若年者
- 未熟練者
- 作業者以外



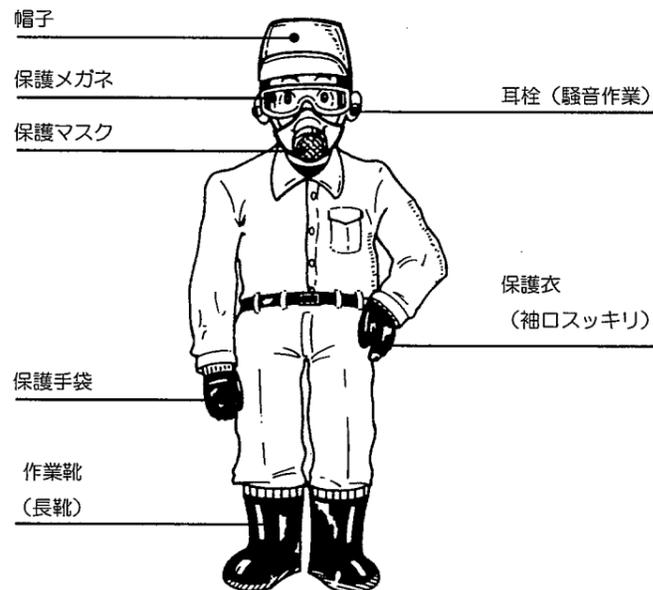
- **服装は、作業に適していますか？**

・保護具はつねに正常な機能を有するよう点検・整備を行ない、正しく使用してください。

・騒音が大きい場合はイヤマフまたは耳栓を着用してください。  
・作業領域には作業者以外の人を近づけないでください。

- 作業に適し、体に合ったものを着用してください。

高圧洗浄中には、泥・砂の跳ね返りで思わぬ怪我（失明）をする場合があります。洗浄作業中は、防護メガネを着用してください。



## 17. サービスと保証について

### ■保証について

保証期間、保証内容は保証書に記載されています。保証書を読んで確認してください。  
保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は大切に保管してください。  
製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

### ■アフターサービスについて

- 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、故障と対策を見て適切な処置を取ってください。  
分からない場合は、お最寄の取扱店にご相談ください。
- 連絡していただく内容
  - 機種名 ●製造番号（貼付け位置はP6参照） ●故障内容なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。
- 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。
- 年に一度は、最寄の取扱店に、点検整備をお願いしてください。  
この時の整備は有料となります。

### ■補修部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後9年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

### (3) ご使用するときの注意

#### ■燃料について

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。また、こぼした時は完全にふき取り、乾かしてください。燃料に引火して火災の原因となります。
- 燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。火災の原因となります。



#### ■エンジンについて

- 車両にて移動するときは、燃料を抜き取ってください。火災の原因となります。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内等、換気の悪い場所では運転しないでください。一酸化炭素中毒になります。
- エンジンの排気ガスを吸ったり、吸わせないようにしてください。一酸化炭素中毒になります。
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダヘッド、シリンダフィン等に手を触れるとヤケドします。特に一度暖まったエンジンを再始動する時は注意してください。
- エンジンを始動する時はマフラーを保持しないでください。ヤケドします。
- 配線及びマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、ホコリの堆積があると火災の原因となりますので取り除いてください。
- エンジン運転中、点火プラグや高圧コードには触らないでください。感電する恐れがあります。
- その他、エンジンの取扱い上の注意事項は同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

換気と可燃物に注意！



#### ■高圧ホースについて

##### 1. 取付けについて

###### ⚠ 警告

- ・継手金具のシート面、ネジ部のキズ、汚れは漏れの発生や継手金具間の離脱の原因となる為目視により外観異常のないことを確認してください。
- ・継手金具接続時にホースを引張らないでください。  
引張りが掛かった場合、継手金具の取付け部等に応力が集中し、抜け、破損の原因となります。
- ・継手金具接続時にホースがねじれていないか確認してください。

##### 2. 取り扱いについて

- ・最高使用圧力以上では絶対に使用しないでください。
- ・高圧洗浄用ホースは絶対に改造しないでください。

###### ⚠ 危険

- ・噴出する高圧水は皮膚を貫通し、ひどい傷害や感染症を生ずる可能性があります。素手でホース及び継手金具の漏れを決して探さないでください。非常に小さな孔から漏れている高圧水は簡単に見えない場合もあり、ひどい傷害を引き起こす可能性がありますので漏れの調査には、常に厚紙あるいは木片を使ってください。

###### ⚠ 警告

- ・高圧洗浄用ホースを車などで踏みつける又、折り曲げ（キング）させるとホースパンクや性能低下の原因となります。右図のように折り曲げ（キング）、ホースに結び目が出来ている状態でホースを引張るとホースが屈曲し破損、事故の原因となります。





## ■点検整備の方法

- ポンプオイルの交換

### ⚠ 注意

- ・オイルを抜く時は、十分オイルが冷えてから行ってください。
- ・オイルの交換等で出た廃油を投棄・焼却等しないでください。水質汚濁、土壌汚染、大気汚染になります。販売店またはお近くのガソリンスタンドにご相談ください。
- ・オイルを給油する時は機械を水平にして行ってください。焼き付きの原因となります。

1. オイルドレンを外し、オイルを抜いてください。
2. 新しいオイルを給油口から入れてください。油面がオイルゲージの中央の赤印にくるように入れてください。  
オイルの種類は、SH 級以上 SAE10W-30。オイル量は約 0.30 リットルです。
3. 給油後、注油口フタを手で確実に締めてください。
  - エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んで整備してください。

## 15. 長期格納

- 長い間使用しない場合は、次の要領で手入れしてください。

### ⚠ 危険

- ・燃料を入れたままですと、火災の原因になります。また、燃料の変質で次の始動が困難になります。必ず燃料は、抜いてください。
- ・火災防止のため、燃料を抜く時はエンジンを停止して、火気を近づけないでください。また、風通しのよい場所で行ってください。
- ・抜いた燃料は、金属缶に入れて保管するか、他の機械で使用するなど危険のないように処理してください。

### 注意

- エンジンオイルは自然に劣化します。使用しない場合でも6ヶ月に1回は新しいオイルと交換してください。

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

1. 保守点検項目を確認してください。
2. 不具合箇所を整備してください。
3. ポンプの水抜き運転（空運転）をしてください。
4. 各ホース、ガンノズルの水を取除き、ゴミや砂が付かないようにしてフックに格納してください。
5. 凍結破損防止のため、水抜きを十分に行い、水・空気抜きレバーは開けておいてください。
6. 燃料タンクと気化器から燃料を抜いてください。（エンジン取扱説明書参照）
7. 燃料コックを閉じてください。
8. ポンプとエンジンのオイルを交換してください。
9. スタータグリップを引いて、重く手ごたえのあるところ（圧縮位置）で止めてください。
10. 塗装のはがれた部分は、サンドペーパー等で錆を落とし、塗料を塗ってください。
11. 機械外部を清掃し、オイルのしみた布できれいにみがいて錆止めをしてください。
12. 箱等に入れ、湿気の少ない風通しのよい室内に保管してください。

- 本機を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。機械転倒によりケガをします。
- 車両にて移動するときは、車両内で固定してください。転倒・移動により事故を起こします。

### ◎設置時の注意事項

- 設置した際に、排気方向は塞がないでください。排気ガスや排気熱により一酸化炭素中毒や火災の原因になります。排気口は風通しのよい広い場所に向けてください。
- 機械を設置したまわりには物を置かないでください。ガソリン等の危険物や可燃物は火災の原因や操作の邪魔になります。特に操作部は、無理のない姿勢で見え、操作できるように設置してください。非常時の対応が素早くできない原因になります。
- 本機は、対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦な場所に設置してください。傾斜した状態で使用するとガソリンの漏れや振動による移動、転倒の危険があります。また、衝撃・落下物のない安全な場所に設置してください。

### ◎始業前の注意事項

- 作業中の危険、トラブル防止のため必ず始業点検してください。
- 高圧ホースに損傷がないことを確認してから接続してください。
- 高圧ホースやカプラの接続が確実か確認してください。漏れや外れにより、ホースが跳ってケガをしたり、高圧水を浴びます。

### ◎洗浄作業の注意事項

- タンク内などの閉所作業の場合はガス点検、換気などを十分注意した上、命綱（必要ならばガスマスク）を装着し、ノズル作業者を他の人が監視してください。
- 高所作業の場合は命綱を着用してください。（労働安全基準法に従ってください。）
- 洗浄作業はできるだけ平坦な場所で周囲を片づけてから行ってください。無理な姿勢での作業はしないでください。ケガをする原因となります。
- 必要に応じて対象物の周りをシートで覆い、建物等への飛沫を防止してください。

### 注意 農業機械・建設機械・自動車・オートバイの洗浄時の特別注意事項

- 農業機械・建設機械、自動車、オートバイなどを洗浄する際は、下記の点に十分注意して下さい。
- ・塗装、メッキ面の被覆剥がれ、タイヤ・ガラス等の損傷。損傷を懸念される箇所を洗浄する場合は本機標準付属のバリアブルノズルを（扇射）にして使います。（\*）
  - ・ラベルシールは（直射）の圧力水を当てると簡単に剥がれます。本機標準付属のバリアブルノズルを（扇射）または、低圧に切り替えて洗浄してください。
  - ・本機には、洗浄水が掛からないように注意して下さい。

（\*）16 ページの『運転』をよく読んでから洗浄・洗車作業を行ってください。

### ◎運転時の注意事項

- ガンノズルの先は絶対に人や動物に向けないでください。噴射停止の状態でも圧力調整装置（アンロード）の構造上高圧ホース内に高圧水が残圧として封入されていますので不意の噴射で高圧水を浴びせる恐れがあります。
- 噴流の中に手足を入れしないでください。ケガをします。
- ガンノズルのガンレバーは絶対にひもや針金等で固定しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するようにして使用してください。緊急時の対応が遅れるだけでなく固定したままで、ガンノズルが手から離れますと、ノズルやホースが跳ってケガをしたり、高圧水を浴びる原因となります。
- ガンノズルから噴射する前に両手でしっかりとガンノズルを構えてから作業を開始してください。
- エンジン始動の時、ガンレバーがロックしていることを確認してください。突然の噴射で高圧水を浴びる恐れがあります。

人や生物に向けない！



ガンレバーの固定禁止



- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止しガンレバーを握り高圧ホース内の残圧を抜いてください。不意の高圧水の噴射を防止できます。
- 高圧ホースで本機を引っ張らないでください。ホースを傷め、漏れにより高圧水を浴びたり、本機が転倒し、火災やケガの原因となります。特に作業中は高圧ホースに余裕を持たせ、本機の転倒・移動には十分注意してください。
- 運転中及び運転直後のエンジンの高温部（特にマフラー）、エンジンのオイル、ポンプ及びポンプのオイルは高温です。触れないでください。ヤケドします。

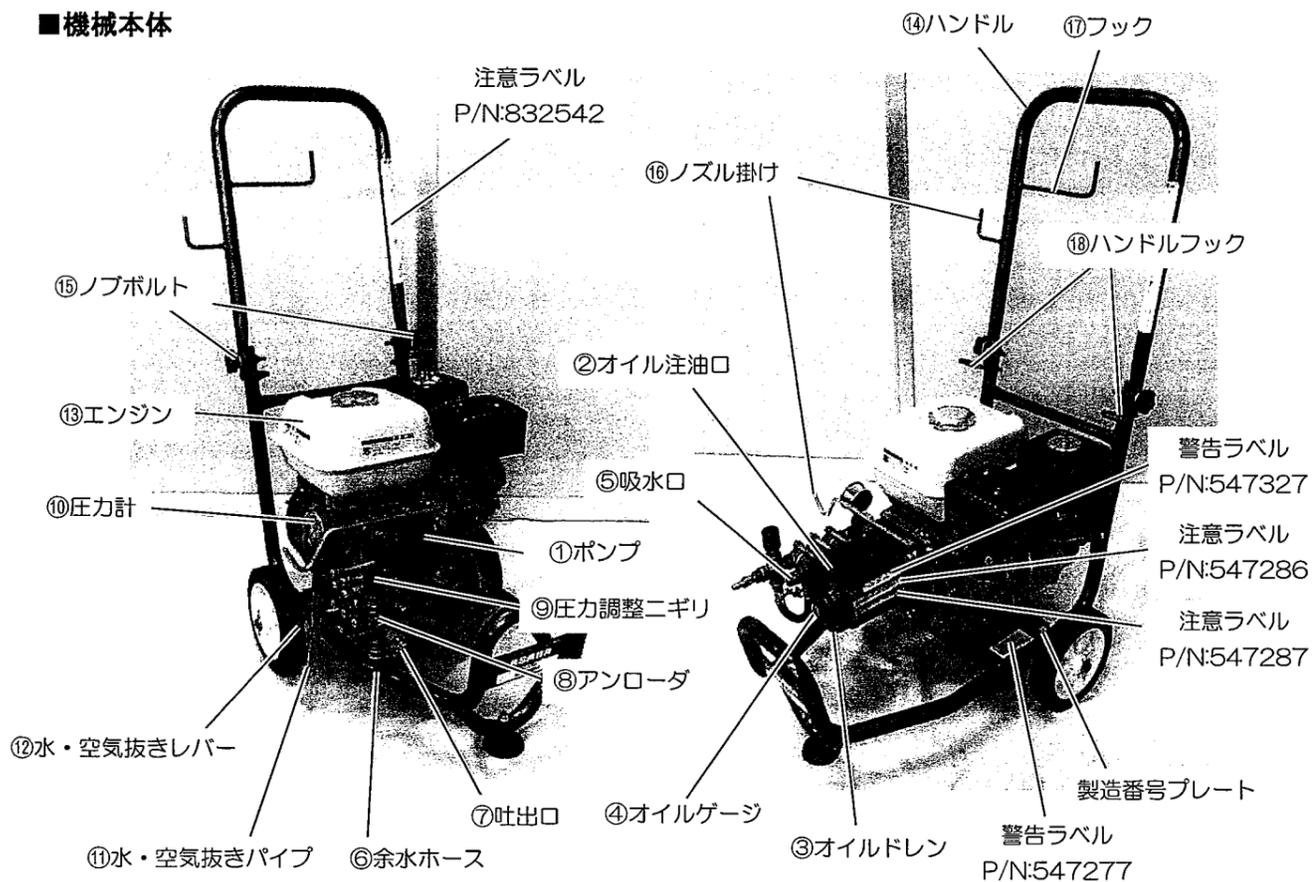
#### (4) ご使用後の注意

- 保護具は常に正常な機能を有するように点検・整備してください。
- 長期間使用されない時は、燃料を全て抜き取ってください。火災や故障の原因となります。
- エンジンが完全に冷えてから格納してください。火災の原因となります。
- 湿気の少ない場所に、ホコリやゴミが付着しないように保管してください。火災の原因となります。

## 2. 各部のなまえとはたらき

- 機械本体及び付属品を点検して損傷、欠品等がありましたら、すぐに本機をご購入された販売店にご連絡してください。

### ■機械本体



- ①ポンプ  
吸水ホースから水を吸い込み、加圧して高圧ホース、ガンノズルへ送ります。
- ②オイル注油口  
ポンプの潤滑用オイルを入れる口です。
- ③オールドレン  
ポンプの潤滑用オイルをここから抜きます。
- ④オイルゲージ  
ポンプの潤滑用オイルの量を確認するところです。

## 13. 作業終了後

### ⚠ 注意

- 高圧ホースを外す時は、ガンレバーを握り、水を完全に抜き残圧を抜いてから外してください。高圧水を浴びます。
- 本機の清掃をする時には、高圧洗浄機を使用しないでください。可動部、シール部に水が浸入し、破損や内部の錆などの原因となります。
- 本機を持ち上げ移動するときは、エンジンがよく冷えていることを確認してから移動するようにしてください。

### ⚠ 注意

- 空運転及び水抜きは確実に行ってください。凍結により機械破損の原因となります。
- 空運転は機械保護のため1分間程度以内に行ってください。
- 機械についた水はきれいに取り去ってください。発錆や故障の原因となります。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗部品は全て当社指定の純正部品をご使用ください。
- 機械は直射日光の当たらない、湿気の少ない場所に保管してください。

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

1. エンジンを始動させ、スロットルレバーを低速側にしてください。
2. 水・空気抜きレバーを開き、吸水ホース、吸水ストレーナをタンクから引上げてください。ガンレバーを握り、各ホース内の水を排出し、水抜きを行ってください。（空運転）
3. 各ホース内の水が排出されたら、すぐにエンジンを停止してください。
4. 凍結破損防止のため、水・空気抜きレバーはあけておいてください。
5. 燃料コックを閉じてください。
6. 吸水ホースを外し、水を取除き、接続部にゴミや砂が入らない様に注意して、ハンドルのフックに格納してください。
7. 高圧ホースとガンノズルを外し、水を取除き、接続部にゴミや砂が入らない様に注意して、ハンドルのフックにそれぞれ格納してください。

## 14. 保守点検

### ⚠ 注意

- 分解点検作業は、専門の業者に依頼するか、最寄の取扱店にご相談ください。
- ケガや事故防止のため、点検整備を行う時には必ずエンジンを停止し、水平で明るい場所で行ってください。
- エンジンをかけた状態で点検整備を行う必要がある場合には自分では行わず、必ず最寄の取扱店に依頼してください。ケガや事故の原因となります。

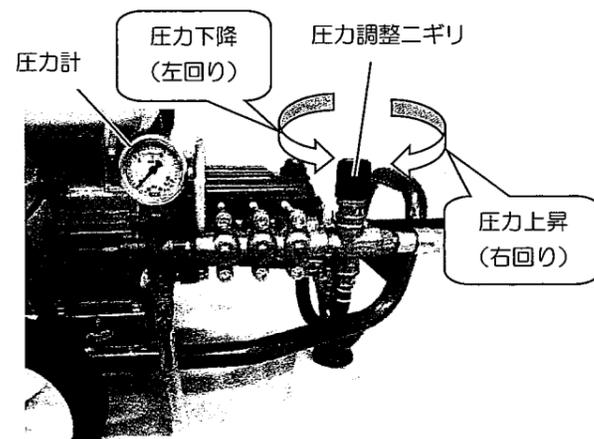
- 機械を常に良好な状態で使うため、次の表に従って定期的に保守点検を行ってください。

項目		時間	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	300 時間ごと	500 時間ごと
本機	ポンプ	各ボルトの締付け		○			
		ポンプのオイルの交換	初回 20 時間	○			
		ポンプ本体の分解・点検				※○	
		アンローダの分解・点検				※○	
エンジン	エンジンについては同梱のエンジン取扱説明書に従ってください。						

※印は、最寄の取扱店に依頼してください。

## ■圧力の調整

- 圧力調整ニギリを回す事により噴射中の圧力を調整することができます。  
圧力調整範囲・・・4～15MPa
- 圧力調整ニギリを右に回すと噴射中の圧力は上昇し、左に回すと圧力は下降します。
- 圧力調整は圧力計で圧力を確認してください。



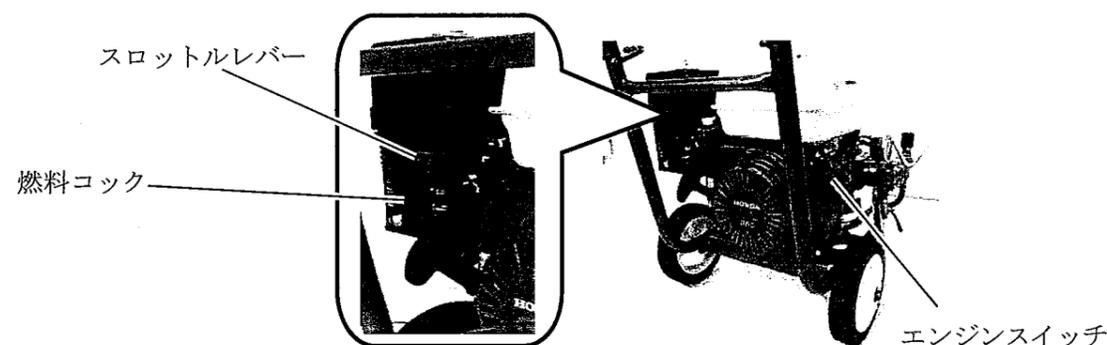
### ⚠ 注意

- 噴射圧力は4 MPa より下げないでください。圧力調整ニギリが脱落する恐れがあります。
- 噴射圧力は最高圧力 (15MPa) を超えて運転すると、事故や不具合の原因となり危険です。
- 噴射停止の状態ではポンプ内の圧力は0MPa となります。圧力調整は噴射中の状態で行ってください。

## 12. 停止

### ■停止

- エンジンについては、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
  1. 作業が終了したら、ガンレバーを離して噴射を停止し、ガンレバーをロックしてください。
  2. スロットルレバーを「低速」にして、2～3分間冷却運転してください。
  3. エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止してください。
  4. ガンレバーを握り高圧ホース内の圧力を抜いてから、再びガンレバーをロックしてください。
  5. 燃料コックを閉じてください。



### ■緊急停止

- 緊急にエンジンを停止する時は、エンジンスイッチを「OFF」にしてください。

### ⚠ 注意

- 冷却運転を行わずにエンジンを停止するとバックファイヤにより破裂音がすることがあります。
- 緊急停止は機械に負担をかけ寿命を縮めますので、緊急時以外には行わないでください。

### ⑤吸水口

ここから水を吸い込みます。付属品の吸水ホースを接続します。

### ⑥余水ホース

ノズルから吐き出されない水を吸水側へ戻します。

### ⑦吐出口

加圧された水の吐出口です。付属品の高圧ホースを接続します。

### ⑧アンローダ、⑨圧力調整ニギリ

圧力の調整をする装置です。また、運転中に噴射を停止するとポンプ本体に圧力 (負荷) をかけない構造になっています。この時、高圧ホース内には高圧水が封入されています。

圧力調整は⑨圧力調整ニギリを回して行います。

### ⚠ 注意

- 圧力調整時、噴射圧力を4MPa より下げないでください。圧力調整ニギリが脱落する恐れがあります。
- 噴射圧力を最高圧力 (15 MPa) 以上に上げると、故障や不具合の原因となり危険です。

### ⑩圧力計

ガンノズルからの噴射圧力を確認します。

### 注意

- 圧力計内部には振動による磨耗、ポンプの脈動を緩和するため、特殊な液体 (グリセリン水溶液) が入っています。分解して、中の液体を抜かないでください。故障します。

### ⑪水・空気抜きパイプ

空気抜き作業時に空気及び水が排出される場所です。

### ⑫水・空気抜きレバー

レバーにて⑪水・空気抜きパイプからの水、空気の排出有無を切り替えます。

### 注意

- 始動後は必ず閉めてください。水漏れにより、圧力が上がらなくなります。

### ⑬エンジン

ポンプを回す動力源です。詳しくは、同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

### ⑭ハンドル

移動時はこれを支えてください。

### ⚠ 注意

- エンジンが十分冷えてから移動してください。火災やヤケドの原因となります。
- 本機を必要以上に傾けたり、移動時に手を離さないでください。機械転倒によりケガをします。

### ⑮ノブボルト

フレームハンドルを組立てた時に、このノブボルトでフレームハンドルを固定します。

### ⑯ノズル掛け

ガンノズルを掛ける場所です。

### ⑰フック

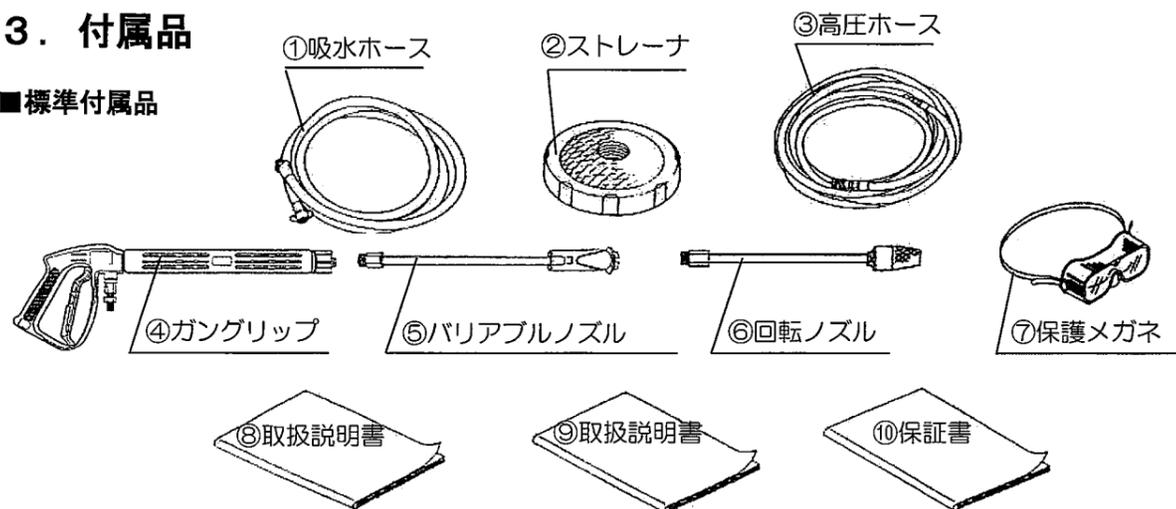
ホース格納用フックです。

### ⑱ハンドルフック

ハンドルを折りたたんだときにハンドルを固定するフックです。

### 3. 付属品

#### ■標準付属品



No.	名称	部品番号	備考	個数	
					APW1511DX-H
1	吸水ホース	548022	13×2.5m		1
2	吸水ストレーナ	122017			1
3	高圧ホース	548029	6×10m		1
4	ガングリップ	548162	カプラ付き		1
5	バリアブルノズル	542616	φ1.3		1
6	回転ノズル	548031	UR20-04		1
7	保護メガネ	221460			1
8	取扱説明書	834336	本機		1
9	取扱説明書		エンジン		1
10	保証書	-			1

#### ■標準付属品のなまえとはたらき

- ①吸水ホース  
タンクから水を吸い込むホースです。
- ②吸水ストレーナ  
タンクへ沈め、水の中のゴミ等の不純物をろ過します。
- ③高圧ホース  
ポンプで加圧された水をノズルへ送ります。

#### ⚠ 注意

- ・高圧水が通りますので、接続・損傷の有無を十分に確認してください。
- ・高圧ホースは修繕が利きません。摺れ、切断にご注意ください。
- ・高圧ホースを屈曲（キンク）させたり車輪で踏んだりしないでください。高圧ホースが傷つき、破裂の原因となります。

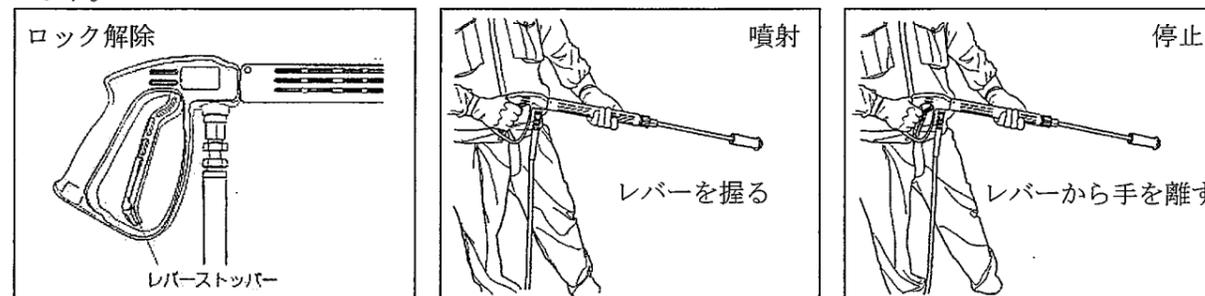
- ④、⑤ガングリップ+バリアブルノズル  
高圧水を対象物に噴射します。

#### ⚠ 警告

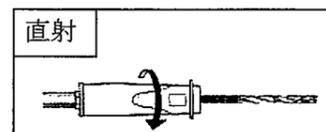
- ・ノズル先は絶対に人や生物に向けないでください。
- ・噴流の中に手足を入れないでください。
- ・ガンレバーは絶対にひもや針金等で固定しないでください。必ず手を離せば噴射が停止するようにしてください。

#### ■運転

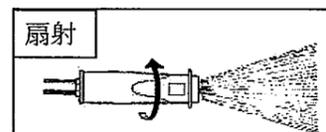
1. エンジン始動の状態からスロットルレバーを「高速」にしてください。  
詳しくはエンジンの取扱説明書をよく読んでください。
2. ガンレバーのロックを解除してください。ガンノズルを手でしっかり握り、中間部を持って、ノズル先を対象物に向けてガンレバーを握ると高圧水が噴射されます。レバーを放すと噴射が停止されます。



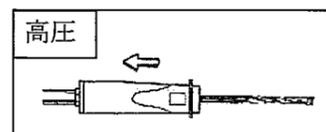
3. ガンノズルは、ノズルを前後に動かすことにより吐出圧を高圧・低圧に切り替えることができ、またそれぞれの圧力でノズルを回転させることにより噴流の形状を直射・扇形と無段階に調整できます。



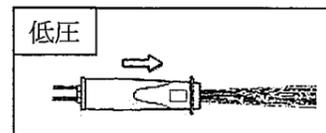
先端を矢印の方向に回すと、(直射)になります。剥離や樹木の皮剥ぎなど強い打力を必要とする時に使います。対象物にノズルを近づければ、洗浄力が増すわけではありません。洗浄力が高くなるのは20~25cmの距離です。



先端を矢印の方向に回すと、(扇射)になります。建設機械や農業機械の床洗浄や器材の洗浄時に使います。



先端を手元に引くと、高圧になります。手前に押出すと、低圧に戻ります。低圧モードは、高圧洗浄で飛び散った汚れの仕上げ洗浄等に使います。



■空気抜き作業

**注意**

- ・空気抜き作業を完全に行わないと、規定の圧力まで上昇しなかったり、圧力振動を起し、故障の原因となります。
- ・1分以内に吸水しない場合には直ちにエンジンを停止してください。故障します。吸水ホースの接続、ストレーナや水源をもう一度確認してください。
- ・空気抜き作業をしても吸水できない場合は、吸水ストレーナを外して水道栓からビニルホース等で水を送り込んでください。水・空気抜きパイプから水がでたら、吸水ストレーナを元に戻して空気抜き作業を行ってください。それでも吸水しない場合は、最寄の取扱店に点検・修理を依頼してください。

1. エンジンが始動しますと、ポンプも始動し吸水を始めますので、水・空気抜きパイプから水が勢い良く出ることを確認してください。
2. 空気抜きレバーを閉じてください。
3. エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを「開」に戻してください。最後は必ず「全開」にしてください。

■暖機運転

- スロットルレバーを低速側にして2~3分間ほど暖機運転してください。

**注意**

- ・ガンノズルから噴射しない状態で5分以上運転しないでください。故障の原因となります。

- 異常音・異常振動・水漏れがないか確認してください。

1 1. 運転

**注意**

- ・操作時にマフラー等熱くなる部分に触れないでください。ヤケドします。

■運転時、作業時の注意事項

**警告**

- ・ガンノズルの先を人や動物に向けしないでください。
- ・噴流の中に手足を入れないでください。
- ・ガンレバーは噴射状態のまま、針金等で固定しないでください。緊急時の対応が遅れます。

**注意**

- ・作業中は異常音、異常振動、液漏れに注意し対処してください。事故や高圧水を浴びます。
- ・高圧ホースを偏った方向に引いたり、ホースで本機を引かないでください。
- ・エンジン運転中に作業を一時中断する時は、必ずガンレバーをロックしてください。万一の噴射を防止できます。

**注意**

- ・エンジンの回転数は本機の振動が大きくなる点（共振点）では使わないでください。
- ・エンジンを始動させたままで、5分以上、ガンノズルからの噴射を停止しないでください。ポンプ内で水が循環し、高温となり故障します。5分間以上噴射を停止するときはエンジンを停止させてください。
- ・タンクの水の残量に注意し、吸水しなくなったら直ちにエンジンを停止してください。

④, ⑥ガングリップ+回転ノズル

高圧水を回転させながら、対象物に噴射します。

**注意**

- ・使用の際は、低い圧力でノズルに水を満たしてください。
- ・噴射の際は、ノズルを下に向けて噴射してからご使用ください。

4. 主要諸元

名 称	APW1511DX-H
寸 法 (長 × 幅 × 高) mm	705 × 480 × 930
乾 燥 質 量 kg	28.4
ポ 名 称	SF30G-ASW-WB-S
最 高 吸 水 量 L/min	11.0
圧 力 MPa	15.0
最 高 回 転 速 度 min <sup>-1</sup>	3600
吸 水 口	G1/2
潤 滑 油 量 L	0.30
エ 名 称	ホンダ GX160
定 格 出 力 kW/3600min <sup>-1</sup> [ps/3600min <sup>-1</sup> ]	2.9 [4.0]
始 動 方 式	リコイル式
潤 滑 油 量 L	0.58
燃 料 タ ン ク 容 量 L	3.1

- 改良のため予告なく諸元を変更することがあります。

5. **警告ラベルの取扱い**

**注意**

- ・いつも汚れや泥を取り、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- ・警告ラベルが損傷したなら、新しいものと交換してください。
- ・警告ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい警告ラベルを、取り外した部品を同じ場所に貼ってください。

- 本機には、次の警告ラベルが貼ってあります。よく読んで理解した上で作業してください。下記にその内容を記載してありますのでよく読んでください。

P/N 547277

**警告**

- ・水道栓からの直接吸水は絶対に行わないこと。
- ・ガンノズル先を人や生物に向けないこと。
- ・ガンノズル先をのぞき込まないこと。
- ・噴射時に手足を入れないこと。
- ・噴射状態でガンレバーを固定しないこと、手を離せば噴射が停止できる状態で使用すること。

P/N 547277

P/N 832542

**注意**

ハンドルを折り曲げる場合はノボルトを緩めてください。緩めが少ない状態でハンドルを操作するとノボルトが破損します。

P/N 832542

P/N 547286

**注意**

安全に作業するために取扱説明書をよく読んで機械の使い方を覚えてから使用すること。

P/N 547286

P/N 547287

**注意**

エンジン回転中やエンジンが熱い間はマフラー、シリンダフィン、シリンダヘッドに触れないこと。

P/N 547287

P/N 547327

**警告**

運転する時は清水を使用し、河川および湖沼からの直接吸水は絶対に行わないこと。

P/N 547327

P/N 548553

**注意**

農業機械を洗浄する時は、機械を損傷させないように適切な距離から順状に噴射してご使用下さい。

エンジン貼付けの警告ラベル

<p><b>注意</b></p> <p>傷害事故防止のため、運転前に取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。</p>	<p><b>警告</b></p> <p>火災や爆発により死傷するおそれがあるので、給油時にはエンジンを停止すること。 給油口に火を近づけないこと。</p>
<p><b>警告</b></p> <p>排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。</p>	<p><b>注意</b></p> <p>ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。</p>

## 6. 始業前の準備

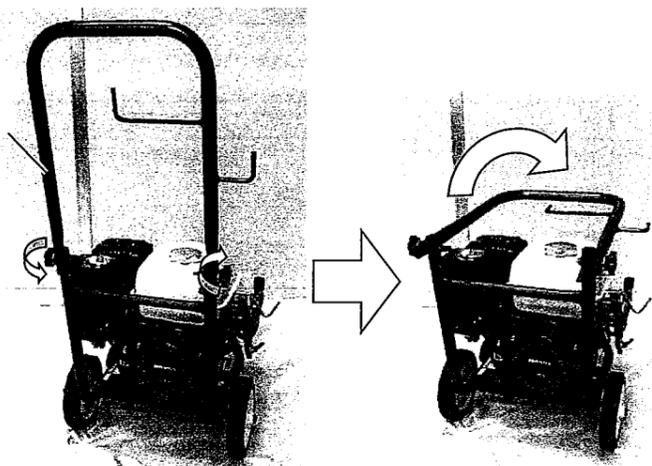
### ⚠ 注意

・始業前の準備は、エンジンを停止して行ってください。事故やケガをします。

### ■ハンドルの組立

ハンドルをフレームに取り付けてノブボルトとハンドルを締め付けてください。

ハンドル



使用状態

折りたたみ状態

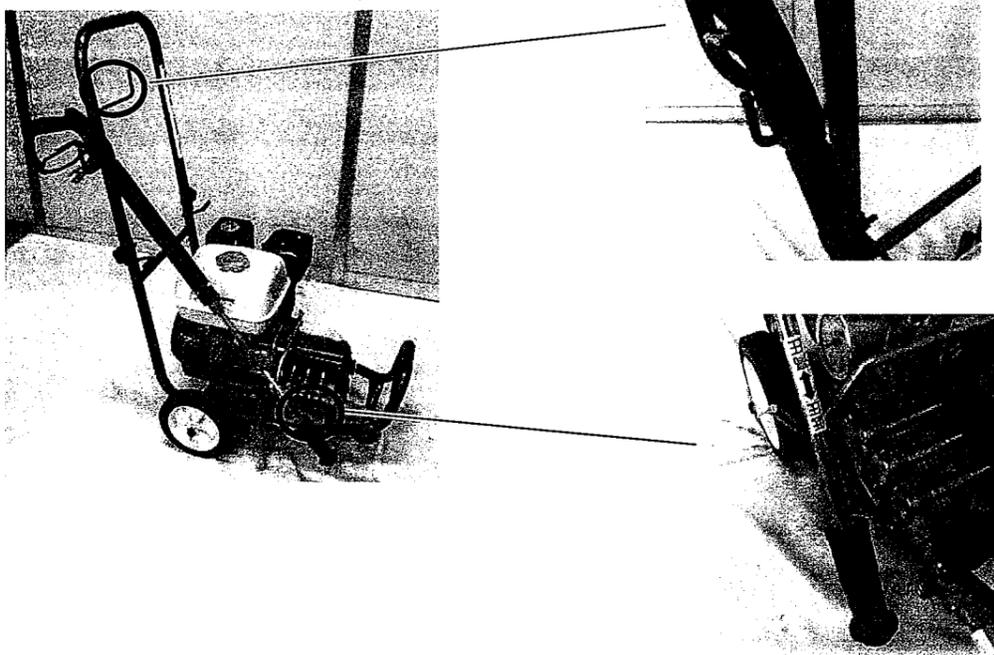
### ⚠ 注意

- ・ノブボルトは確実に締め付けてください。締め付けが緩いとハンドルが外れ、ケガの原因となります。また、ノブボルトが破損します。
- ・ハンドルを折り曲げる場合は、ノブボルトをナットの端面ギリギリまで緩めてください。緩めが少ないとノブボルトが破損します。
- ・ハンドル折りたたみ状態でハンドルの上に物を置かないでください。破損の恐れがあります。



### ■ガンノズルの設置

- ガンノズルをノズル掛けに設置して下さい。



## 10. 始動

### ⚠ 注意

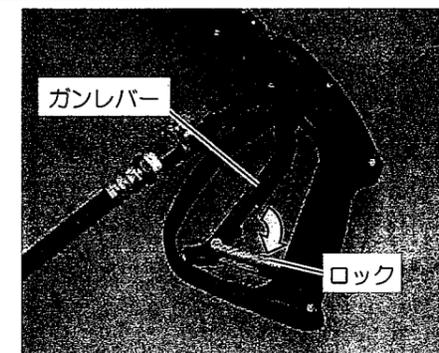
- ・作業前に清水で運転し、各部の異常や漏れがないことを確認してください。
- ・操作時、マフラーは高温です。ヤケドしますので触れないでください。

### ■ガンノズル

- ガンレバーをロックしてください。

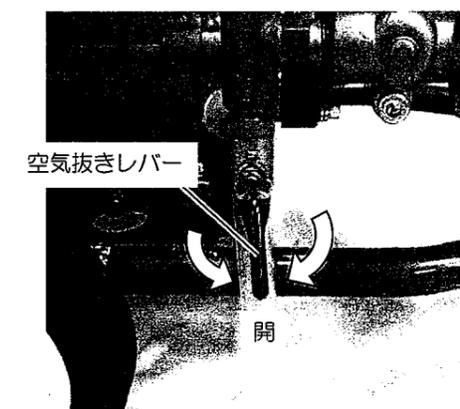
### ⚠ 注意

- ・ガンレバーをロックしていないと、不意にノズルから噴射する恐れがあり、事故の原因となります。



### ■水・空気抜きレバー

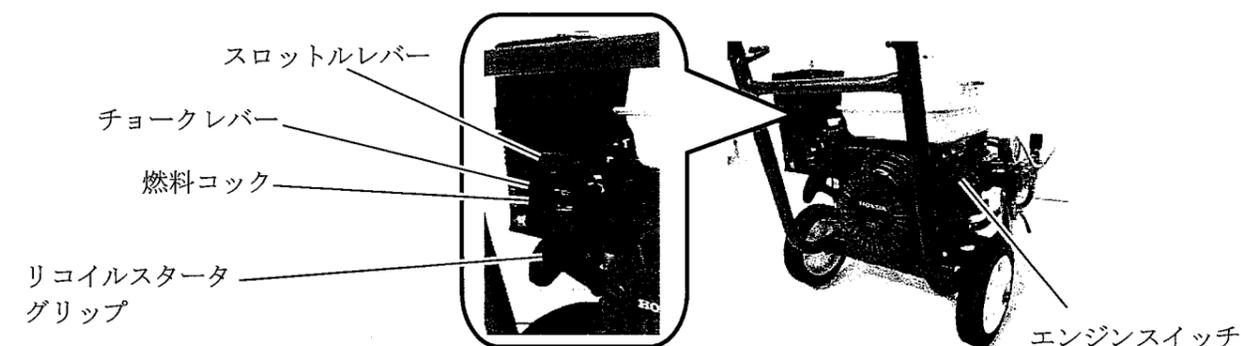
- ・水・空気抜きレバーを全閉の位置から開いてください。



### ■エンジン

- 詳しくはエンジンの取扱説明書をよく読んでください。

1. 燃料コックを開いてください。
2. エンジンスイッチを「ON」にしてください。
3. スロットルレバーを「半開」にしてください。
4. チョークレバーを「全閉」の位置にしてください。エンジンが暖まっている時はチョークレバーを「開」の位置にしてください。
5. 本機をしっかり押さえ、リコイルスタータグリップを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ってください。



### ⚠ 注意

- ・マフラーに手を置いて操作しないでください。ヤケドします。
- ・スタータグリップを引いたまま手を離さないでください。始動装置を破損することがあります。
- ・運転中はスタータグリップに触れないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- 2~3回スタータを引いても始動しない場合は、燃料の吸い過ぎとなり、始動困難になることがありますので、チョークレバーを「開」にしてから操作してください。

	高圧ホース	パッキンの紛失・損傷はないか	補充・交換します
		ネジ部の損傷はないか	交換します
		接続部に異物はないか	清掃します
ガンノズル	ガン部	ガンレバーの作動は正常か	修理を依頼します
	ノズル部	詰まりはないか	清掃します
	カプラ部	変形・損傷はないか	交換します
接続部に異物はないか		清掃します	
エンジン	潤滑油	規定量のオイルが入っているか	規定レベルまで補給します
		オイルが汚れていないか	交換します
		オイルの漏れはないか	修理を依頼します
	燃料	燃料の漏れはないか	修理を依頼します
		燃料タンクに燃料が入っているか	燃料を給油します
エアクリーナ	エレメントは汚れていないか	清掃します	
全体	異常音	異常音はないか	運転を停止して原因を調べます
	異常振動	異常振動はないか	運転を停止して原因を調べます
	水漏れ	水漏れはないか	運転を停止して原因を調べます

※エンジンについて詳しくはエンジンの取扱説明書をお読みください。

## 8. 始業運転

### ⚠ 注意

・始業運転中に異常があった場合には、ただちに停止して、21 ページの故障診断を参考にして処置してください。

●作業前に清水にて始業運転（15～18 ページ、始動、運転、停止）を行い、異常がないことを確認してください。

## 9. 吸水

### ⚠ 注意

・飲料水水源及び生物を飼育している湖沼からの直接吸水は、絶対に行わないでください。

### 注意

- ・0～40℃の水を使用してください。高温水の使用は故障の原因になります。
- ・外気温が低くポンプが凍結している恐れがある場合は、ポンプを温水等で温めてから使用してください。ポンプが凍結したまま使用するとポンプが破損します。
- ・清水（上水道）を使用してください。泥や砂等が混入している水は使用しないで下さい。また、農薬、化学薬品、高粘度液、海水、温泉水やこれらを含む汚水は使用できません。故障の原因となります。
- ・目詰まり防止のため、使用する度に吸水ストレーナを清掃してください。
- ・吸水ストレーナが完全に水中に沈むようにしてください。故障や吸水しない原因になります。
- ・吸水ストレーナは本機の設置面の高さより低くならないようにしてください。故障や吸水しない原因になります。
- ・吸水ホースがタンクの縁などでつぶれないようにしてください。故障や吸水しない原因になります。

- タンクの中のゴミや沈殿物を取り除いてください。
- タンクに必要な量の清水（上水道）を入れてください。
- 吸水ホースと吸水ストレーナをタンクの中に沈めてください。

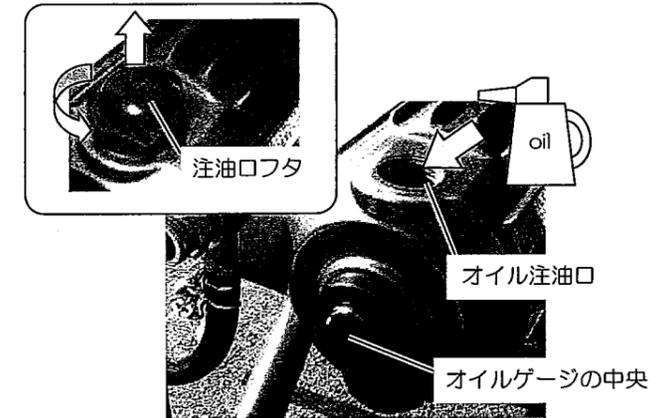
## ■オイルの給油・注油

### 注意

- ・オイルの給油、確認は機械を水平に行ってください。焼き付きの原因となります。
- ・出荷時、ポンプ及びエンジンにはオイルは入っていません。ご使用前に必ずオイルを入れてください。
- ・注油口フタ、エンジンのオイルゲージは確実に締めてください。緩いとオイルが漏れることがあります。

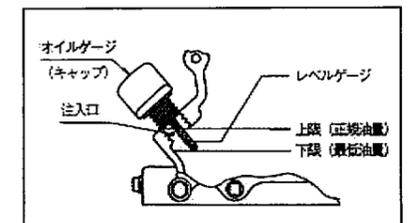
## ■ポンプへのオイル給油・補給

- 初めて使用される時は、SH 級以上 SAE10W - 30 のオイルをオイルゲージの中央赤印まで入れてください。オイル量は約 0.30 リットルです。
- ①オイルゲージの中央の赤印まで油面があるか確認してください。
- ②少ない時には新しいオイルを補給してください。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。交換時期、方法は、19 ページを参照してください。
- ③給油・補給・交換後は注油口フタを確実に締めてください。

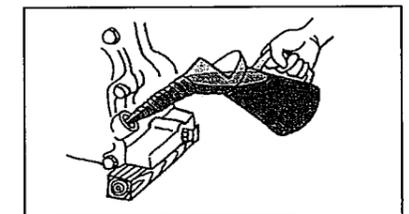


## ■エンジンへのオイル給油・補給

- 初めて使用される時は、オイルを入れてください。オイル量は・・・約 0.58 リットル
- オイルの種類は、SE 級以上 SAE10W-30。
- ①規定量にオイルがあることを確認してください。
- ②少ない時には新しいオイルを補給してください。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。
- 詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。
- ③給油・補給・交換後は注油口フタを確実に締めてください。



オイル点検



オイル補給

## ■燃料の給油

### ⚠ 危険

火災防止のため下記の項目を必ず守ってください。

- ・給油中は、エンジンを停止してください。
- ・給油中は、火気を近づけないでください。
- ・こぼさないように燃料を補給してください。こぼれた場合はすぐに拭き取ってください。
- ・給油後、燃料タンクのフタは確実に締めてください。

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを使用してください。
- 燃料補給時には燃料コシ網を必ず使用してください。
- 詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

## ■設置

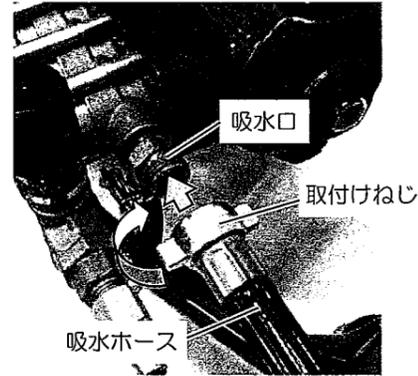
### ⚠ 注意

- ・本機には作業員以外の人や動物を近づけないでください。
- ・周囲に火気やガソリン等の危険物、燃えやすいものがないことを確認してください。
- ・換気の悪い場所では運転しないでください。また、エンジンの排気方向は塞がないでください。
- ・機械を設置した周りには物を置かないでください。特に操作部は、無理のない姿勢で見え操作できるようにしてください。
- ・本機は対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦で衝撃・落下物のない場所に設置してください。
- ・設置時に衝撃を与えないでください。

## ■吸水ホースの取付け

### 注意

- ・吸水ホースの接続が不完全な時や吸水ホースを山なりにしたり、折ったり、つぶしたりすると空気を吸い込み、吸水しない、異常振動が出る等で機械の寿命を縮めることがあります。

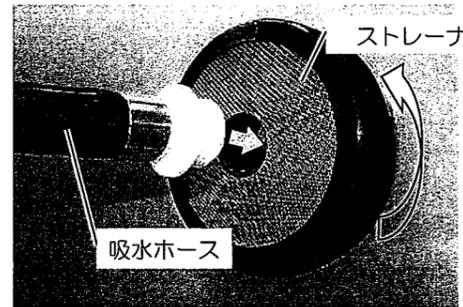


- 取付け前に吸水ホースの取付けねじ部内にあるパッキンの紛失及び破損が無いことを確認してから吸水口に最後までしっかりとねじ込んでください。
- ホースは山なりにしたり、折ったり、つぶしたりしないでください。

## ■吸水ストレーナの取付け

### 注意

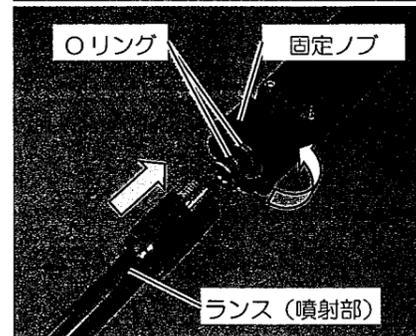
- ・使用する前に清掃してください。



- ストレーナを吸水ホースの先端に最後までしっかりとねじ込んでください。

## ■ガンノズルの組立

- Oリングの紛失及び破損がないことを確認してからランス（噴射部）をガンに押し込んで固定ノブを回して組みつけてください。

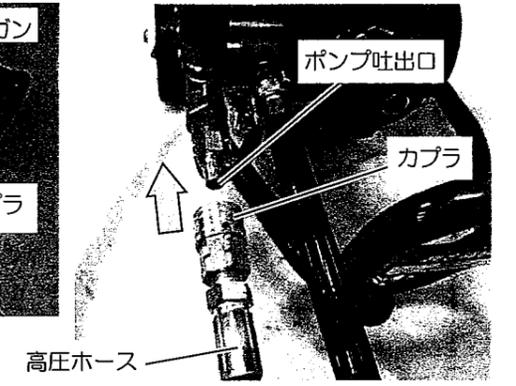
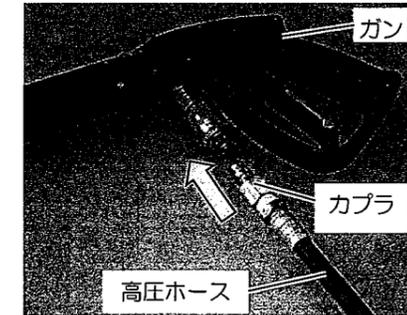
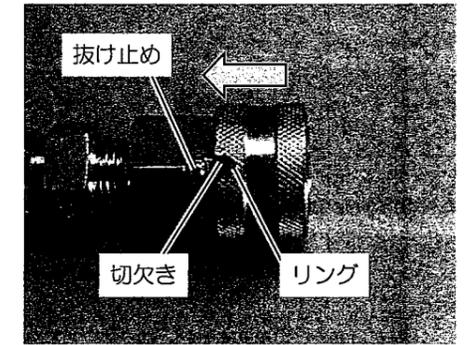


## ■高圧ホースの取付け

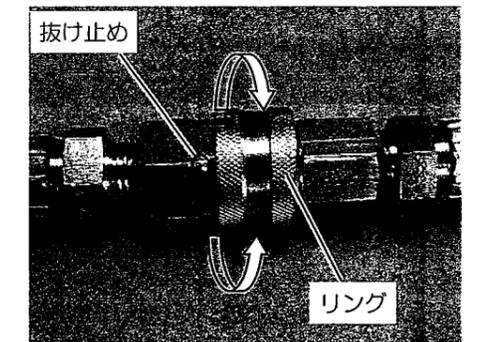
### 注意

- ・高圧ホースの接続は確実に行ってください。事故やケガの原因となります。

- カブラのリングの切欠きを抜け止めの位置に併せ、抜け止めの方向にリングを引いてください。
- 高圧ホースのカブラをポンプ吐出口及び、ガンノズルに確実に差込み、「カチン」と音がするまで強く、押し込んでください。



- カブラを押し込んだ後にリングを回し、抜け止めが効いた状態にしてください。
- ホースを引いて外れないことを確認してください。



## 7. 始業点検

### ⚠ 注意

- ・ケガや事故防止のため、点検整備を行う時には必ずエンジンを停止し、水平で明るい場所で行ってください。
- ・エンジンをかけた状態で点検整備を行う必要がある場合には自分で行わず、必ず最寄りの取扱店に依頼してください。ケガや事故の原因となります。

- 故障を未然に防ぐには機械の状態をいつも知っていることが大切です。始動前には必ず下記の点検を行ってください。

区分	項目	点検内容	処置
各区分共通	ネジ・ボルト	ネジの緩み、脱落はないか	点検・締付をします
		変形・損傷はないか	修理を依頼します
		ゴミやホコリはないか	清掃します
ポンプ	潤滑油	ゲージ中央の赤印に油面があるか	赤印まで補給します
		オイルが汚れていないか	交換します
		オイル漏れはないか	修理を依頼します
ホース関係	ストレーナ	吸水時毎に清掃しているか	清掃します
		ストレーナの破損はないか	交換します
	吸水ホース	ホースの損傷はないか	交換します

エンジン

**GX120・GX160・GX200**

**取扱説明書**

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、  
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

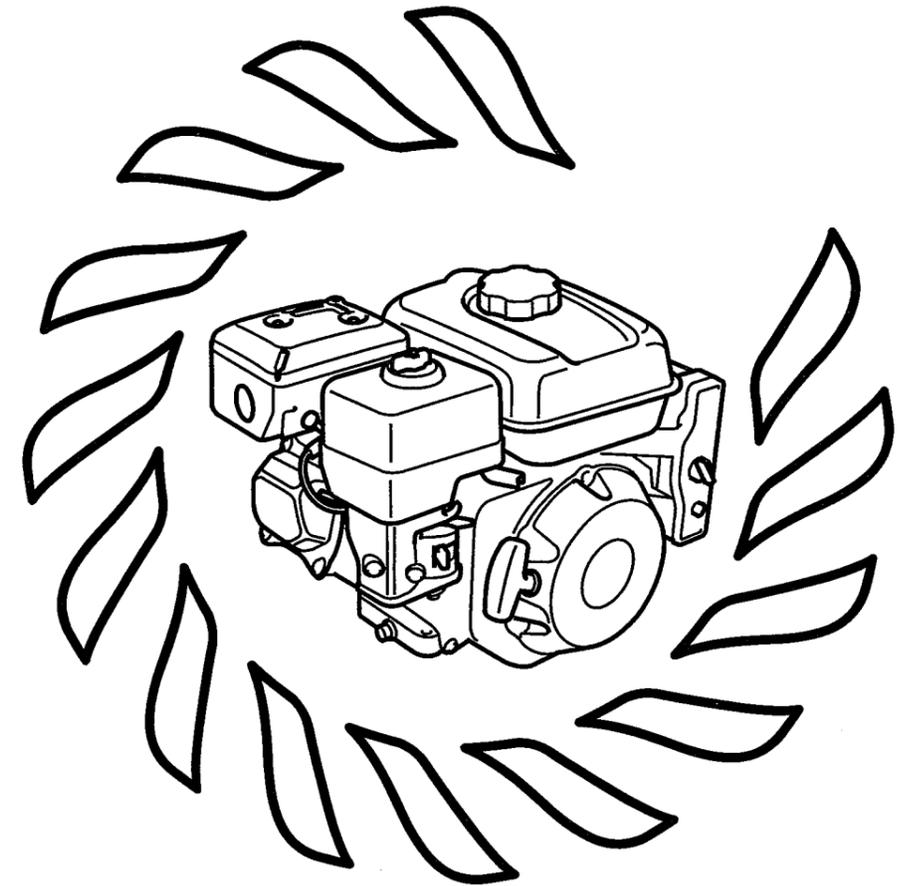
フリーダイヤル 0120 - 112010

受付時間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00  
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 製品名、タイプ名
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名



お買いあげありがとうございます。  
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

GX120T2  
GX160T2  
GX200T2

# はじめに

- この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みください。

## 安全に関する表示について

本書では、作業員や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。



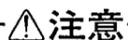
**危険**

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



**警告**

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



**注意**

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

## その他の表示

### 取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

## 取扱説明書について

この取扱説明書は

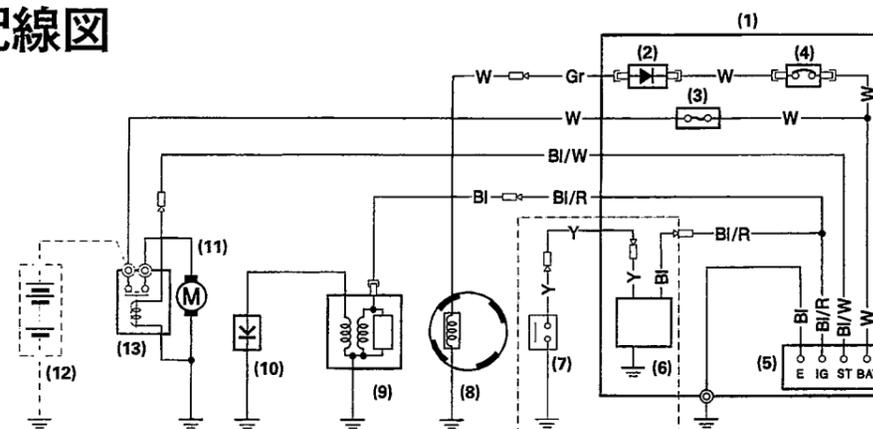
- エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお願いします。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にご注文ください。

- なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。



本製品は、(一社)日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合しています。

## 配線図



エンジンスイッチ接続表

	IG	E	BAT	ST
COLOR	黒/赤	黒	白	黒/白
OFF	○	○		
ON				
START			○	○

- (1) コントロールボックス
- (2) レクチファイア
- (3) ヒューズ
- (4) サーキットブレーカ
- (5) エンジンスイッチ
- (6) オイルアラートユニット
- (7) オイルレベルスイッチ
- (8) チャージコイル
- (9) イグニッションコイル
- (10) スパークプラグ
- (11) スターターモータ
- (12) バッテリー
- (13) スターターソレノイド

BI	黒	Br	茶
Y	黄	O	橙
Bu	青	Lb	空
G	緑	Lg	若葉
R	赤	P	桃
W	白	Gr	灰

(セルフスターター付、オイルアラート付)

\*配線図はタイプにより異なります。

## 主要諸元

寸法質量はSタイプの数値です。

名 称	GX120T2	GX160T2	GX200T2
型 式	GCBNT	GCBRT	GCBUT
全長×全幅×全高	297×346×318 mm	304×362×335 mm	313×376×335 mm
乾燥質量(重量)	13.0 kg	15.1 kg	16.1 kg
形 式	空冷4ストローク傾斜型ガソリン(OHV)		
総 排 気 量	118 cm <sup>3</sup>	163 cm <sup>3</sup>	196 cm <sup>3</sup>
連続定格出力/回転速度	2.1kW (2.9PS)/3,600rpm	2.9kW (3.9PS)/3,600rpm	3.7kW (5.0PS)/3,600rpm
最大出力/回転速度 (SAE J1349に準拠*)	2.6kW (3.5PS)/3,600rpm	3.6kW (4.9PS)/3,600rpm	4.3kW (5.8PS)/3,600rpm
最大トルク/回転速度 (SAE J1349に準拠*)	7.3N·m (0.74kgf·m)/ 2,500rpm	10.3N·m (1.05kgf·m)/ 2,500rpm	12.4N·m (1.26kgf·m)/ 2,500rpm
使 用 燃 料	無鉛レギュラーガソリン		
燃 料 タ ン ク 容 量	2.0 L	3.1 L	3.1 L
エ ン ジ ン オ イ ル 量	0.56 L	0.58 L	0.6 L
点 火 方 式	トランジスタ式マグネット点火		
始 動 方 式	リコイルスターター	リコイルスターター/セルフスターター	リコイルスターター/セルフスターター

\*ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm(最大出力)、2,500rpm(最大トルク)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※タイプによってはオイルアラート、セルフスターター、リセットスイッチ、および減速機が装備されておりません。また諸元が異なる場合があります。

※諸元は予告なく変更することがあります。

# バッテリーの取付けと点検

(セルフスターター付)

## 警告

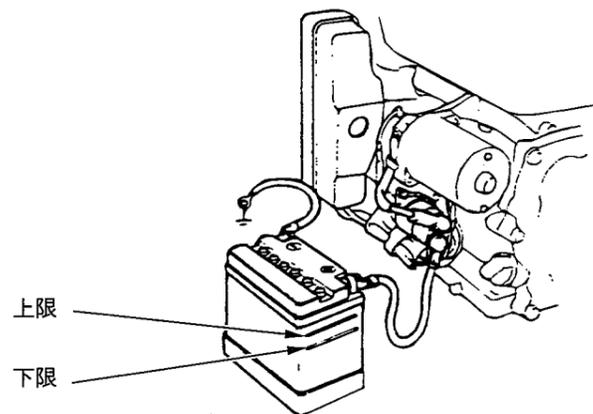
- ・バッテリーに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
- ・バッテリーを取扱うときは風通しのよいところで行きショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。
- ・バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- ・バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- ・バッテリーに表示されている警告と説明文をよくお読みになり、使用してください。

## 《取付け》

1. バッテリーは12V-18AH以上の仕様のもを使用してください。
2. バッテリーとエンジン間のコードは自動車専用ビニール被覆電線（低電圧用）で断面積が8mm<sup>2</sup>以上のもので圧着端子付きを使用してください。コード長さは1m以内にしてください。
3. バッテリー端子にグリース等を塗布し保護してください。さらに⊕端子にはカバーをしてください。
4. バッテリーの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。もし、リセットスイッチのボタンが上がっている時は⊕⊖の配線接続を確認してからボタンを押して復帰させてください。

## 《点検》

- ・バッテリーの液面が上限にあれば正常です。バッテリー液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
- ・端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは確実に締付けてください。端子に白い粉が付いている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
- ・長期保管後使用するときや、バッテリーがあがり気味のときは補充電を行ってください。



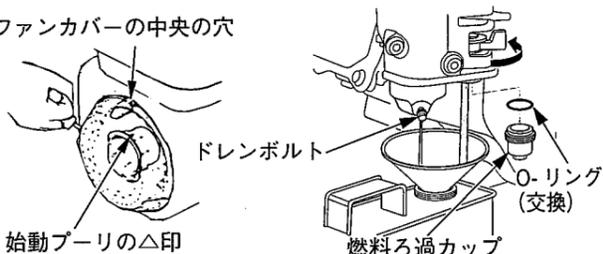
# 長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

## 警告

- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また酸化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ・ガソリンを抜くときは
  - ・エンジンを停止してください。
  - ・火気を近づけないでください。
  - ・換気の良い場所で行ってください。
  - ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

ファンカバーの中央の穴

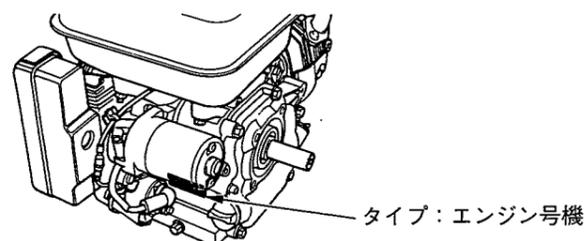


- ・始動グリップを引き、重くなったところでファンカバーの中央の穴と始動プーリ△印を合わせます。
- ・燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜きます。
  1. 燃料コックレバーをの“止”位置に合わせます。
  2. ドレンボルトを1～2回転ゆるめてキャブレター内のガソリンを抜き、燃料ろ過カップを取外します。
  3. 燃料コックレバーを“出”の位置にします。
  4. 完全にガソリンが抜けたら、シーリングワッシャーを組付けたドレンボルトと燃料ろ過カップを確実に締付けます。
- ・エンジンオイルを交換します。
- ・ビニール等でカバーをします。
- ・湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

## 取扱いのポイント

- ・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。（6か月に1回新しいオイルと交換）

# タイプ、エンジン号機の表示位置



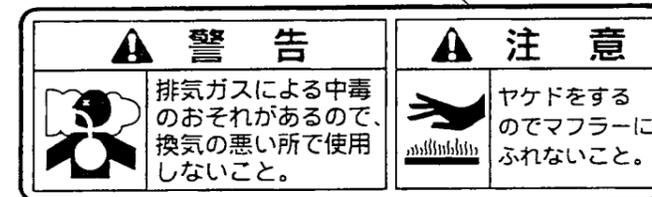
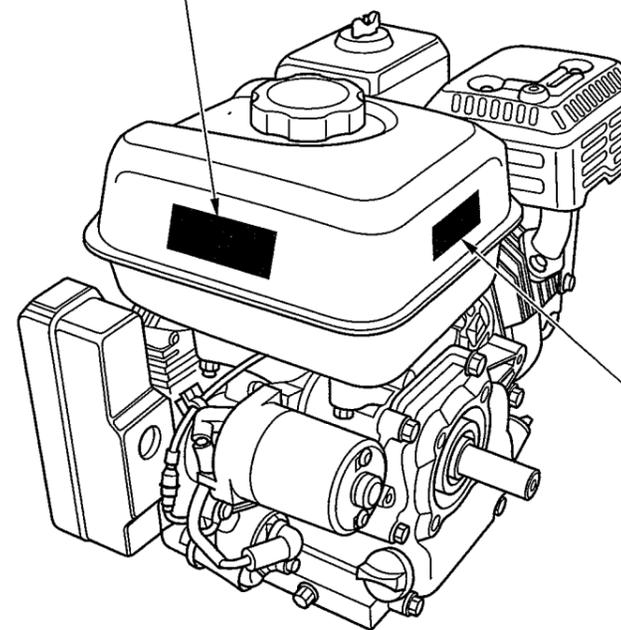
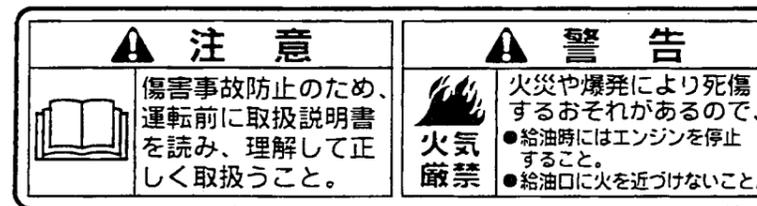
タイプ：エンジン号機

## ●安全ラベル

Honda エンジンをお安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。



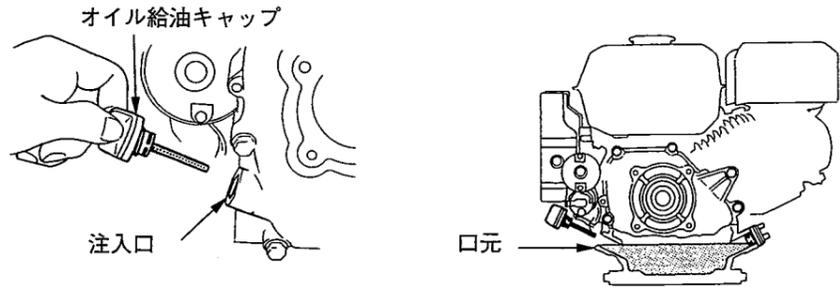
※ 安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

# エンジンを始動する前に点検しましょう

## エンジン オイルの点検

### 《点検》

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあることを確認してください。

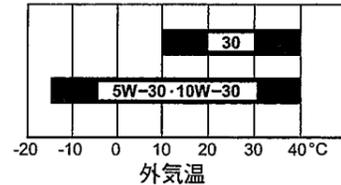


### 《補給》

- ・不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
- ・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は12頁参照)

《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30) または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



### 取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

## 減速機オイルの点検

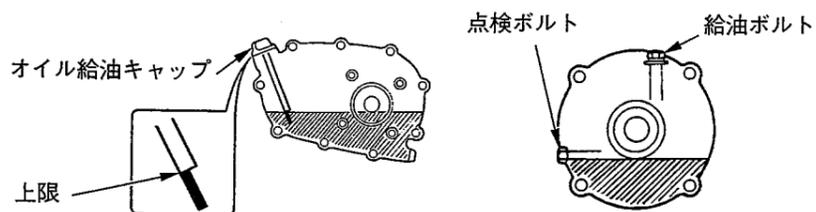
### 《点検》

1 / 2 減速機 ..... オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで確認します。少ない場合は補給してください。

1 / 6 減速機 ..... 点検ボルトを外し、口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は給油ボルトを外し補給してください。

1 / 2 減速機 (自動遠心クラッチ付)

1 / 6 減速機



### 《補給》

使用オイル: Honda 純正エンジンオイル (推奨オイルは上記参照)

## オイルアラート

(オイルアラート付タイプのみ)

### 焼付防止エンジン自動停止装置

上記エンジンオイル量の点検を必ず行ってください。

エンジンオイルが不足するとエンジンは自動的に停止します。エンジンオイルを補給してください。エンジンオイルが不足したままでは始動できません。

# 点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

## エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

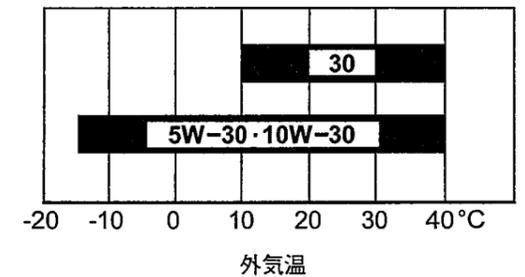
### ⚠ 注意

- ・エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- ・オイル量の点検は水平な場所で行ってください。

《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30) または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

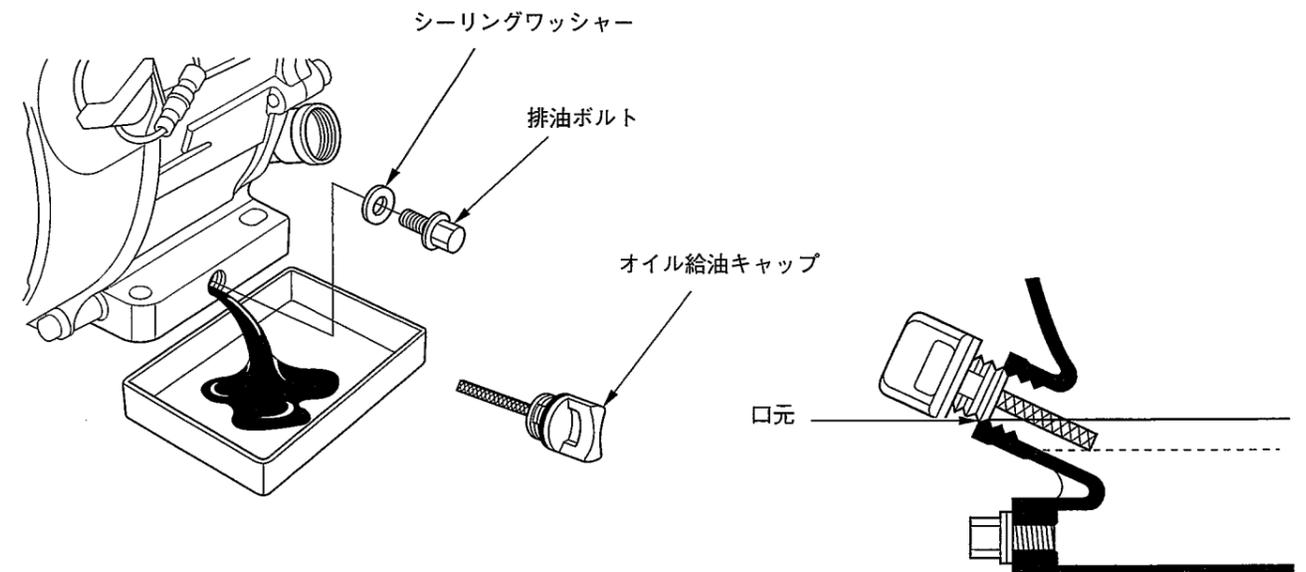
《オイル容量》 GX120 : 0.56 L  
GX160 : 0.58 L  
GX200 : 0.6 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



### 《交換方法》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャーを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



### 取扱いのポイント

- ・交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- ・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

# 定期点検を行いましょ

お買いあげいただきました Honda エンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょ。

## 定期点検表

点検整備項目	点検時期 (3)	作業前点検	1ヵ月目	3ヵ月毎	6ヵ月毎	1年毎	参照頁
			または 初回 20 時間 運転目	または 50 時間 運転毎	または 100 時間 運転毎	または 300 時間 運転毎	
エンジンオイル	点検	○					7
	交換		○		○		12
減速機オイル	点検	○					7
	交換		○		○		13
エアクリナー	点検	○					8
	清掃			○ (1)	○ (*) (1)		14
	交換					○ (**)	14
点火プラグ	点検、調整				○		15
	交換					○	15
スパークアレスター (装備機のみ)	清掃				○		—
燃料ろ過カップ	清掃				○		15
アイドル回転	点検、調整					○ (2)	—
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○ (2)	—
燃焼室	清掃		500 時間運転毎 (2) (4)				—
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃				○ (2)		—
燃料チューブ	点検		2 年毎 (必要なら交換) (2)				—

(\*) インターナルベントキャブレターのデュアルエアクリナータイプのみ清掃してください。  
サイクロンタイプは6ヵ月毎または150時間運転毎に清掃してください。

(\*\*) 紙ろ過部のみ交換してください。  
サイクロンタイプは2年毎または600時間毎に交換してください。

- (1) ホコリの多い場所で使用した場合、エアクリナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。  
 (2) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。  
 (3) 点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。  
 (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

### 警告

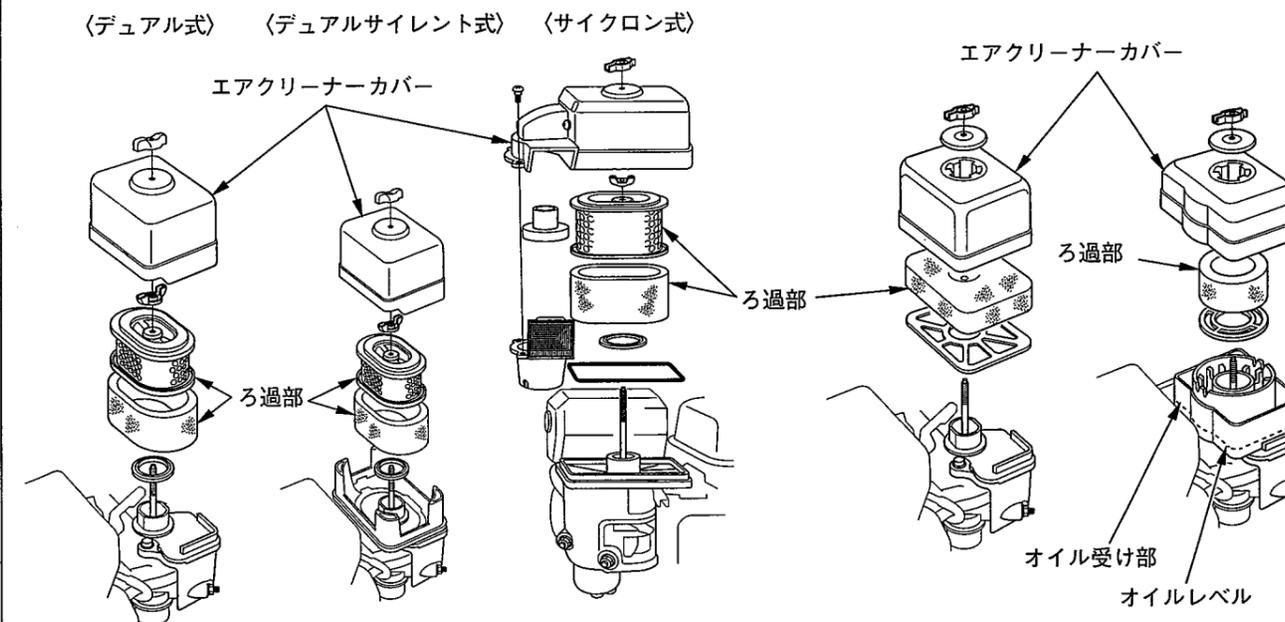
- 点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。(15頁参照)
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。

## エアクリナー (空気清浄器) の点検

- 乾式、半乾式………エアクリナーカバーを外し、ろ過部 (ウレタン、紙製) が汚れていないことを確認します。
  - 湿式………エアクリナーカバーを外し、オイル受け部のオイルレベルまでオイルが入っていることを確認、また汚れていないことを確認します。
- ・汚れている場合、オイルレベルの低い場合は清掃、補給してください。(清掃方法は14頁参照)  
 ・汚れているとエンジン性能が低下します。

乾式 (ドライタイプ)

半乾式 (セミドライタイプ) 湿式 (ウエットタイプ)



### 取扱いのポイント

- エアクリナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリナーカバーや、ろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## バッテリーの点検 (セルフスターター付)

### 警告

- バッテリーに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。
- バッテリーを取扱うときは風通しのよいところで行いショートによる火花に注意し、火気を近づけないでください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。
- バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリーの劣化を早めたり、破裂 (爆発) の原因となるおそれがあります。破裂 (爆発) の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側からはずしてください。工具などが接触するとショートする場合があります。

- バッテリーは別売部品です。セルフスターター付エンジンをお買いあげいただいた方は、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談の上、適正なバッテリーをご購入ください。
- バッテリーの液面が上限にあれば正常です。バッテリー液が少ないときはキャップを外して蒸留水を上限まで補給してください。
- バッテリーの接続がまちがっていないか、また締付けナットがゆるんでいないことを確認してください。

# エンジンのかけかた

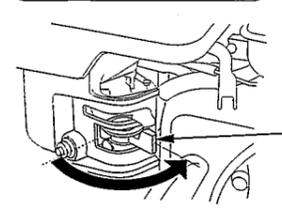
## 警告

- ・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- ・エンジン始動は、平坦な場所で行ってください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## かけかた

**1 燃料コック**

- ・燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

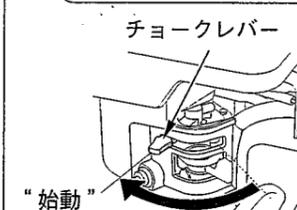


燃料コックレバー

**2 チョーク**

チョークレバー

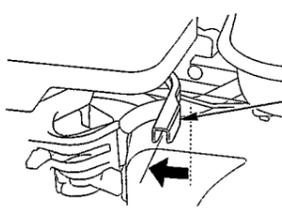
- ・寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを“始動”の位置にあわせ、エンジンが暖まっているときは操作不要です。



“始動”

**3 エンジン回転調整レバー**

- ・エンジン回転調整レバーを矢印の方向に少し動かします。



エンジン回転調整レバー

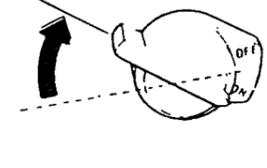
**4 エンジンスイッチ**

- ・エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置にします。

“ON”

**始動グリップ**

- ・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

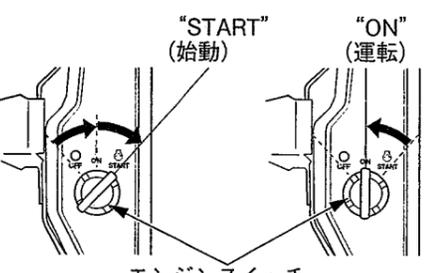


始動グリップ

引っ張り方向

**4 セルフスターター付 エンジンスイッチ**

- ・エンジンスイッチを“START”（始動）の位置まで回しエンジンを始動します。
- ・エンジンが始動したら、エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置に戻します。



“START”（始動）

“ON”（運転）

エンジンスイッチ

**取扱いのポイント**

- ・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- ・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

**取扱いのポイント**

- ・セルフスターターを回して5秒以内にエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

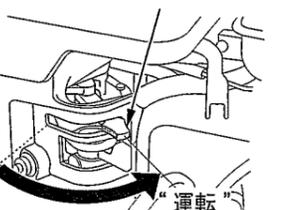
**5 始動**

- ・2～3分間暖機運転を行ってください。

**6 チョーク**

チョークレバー

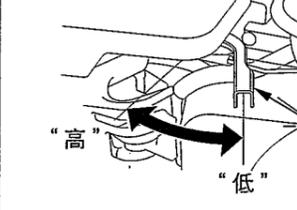
- ・チョークレバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



“運転”

**7 エンジン回転調整レバー**

- ・エンジン回転調整レバーを使用する回転数に調整してください。



“高” “低”

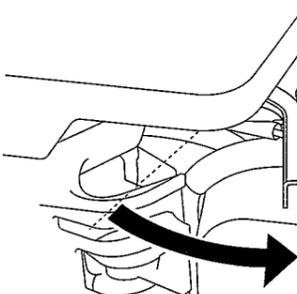
エンジン回転調整レバー

# エンジンのとめかた

## とめかた

**1 エンジン回転調整レバー**

- ・エンジン回転調整レバーを“低”の位置（矢印の方向）に戻します。

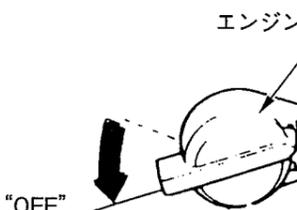


エンジン回転調整レバー

“低”

**2 エンジンスイッチ**

- ・エンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置に回します。



エンジンスイッチ

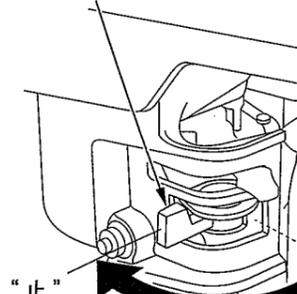
“OFF”（停止）

“OFF”（停止）

（セルフスターター付）

**3 燃料コック**

- ・燃料コックレバーを“止”の位置に合わせます。



燃料コックレバー

“止”